

6. 当院イントラネット内に構築した「放射線検査の手引」について ～核医学検査編～

高松赤十字病院 ○篠岡 光、坂本 吉伸、峯瀬 正高、森 健一
慎殿 元譽、安部 一成、川崎 幸子

【目的・背景】

2010年4月30日、厚生労働省局長通知にて検査の説明・相談の重要性が指摘された。オーダーリングシステムが導入されてから当院では外来や病棟から患者が移動することなく予約が行える様になっており、内容を十分理解しないまま検査当日に来院される患者も少なくない。また、核医学検査は種類が多く前処置や方法も多様なことから患者を取り巻くスタッフの一貫した説明が困難なモダリティの一つである。今回、院内のイントラネットを活用し、我々技師だけでなく診療に携わる医師やスタッフが最新の情報を共有し、場所を問わず検査に関する統一された説明が行える環境を整えることを目的とした。

【方法】

当院のイントラネット内には各診療科、部門ごとのホームページ領域が用意されている。今回はその一部を利用することにより「核医学検査の手引」を作成、構築し、接続された全ての端末から必要な情報に最小限のマウス操作のみでアクセスできるように工夫する。またこれらの情報を様々な機会を通じて積極的に紹介し、関係者への周知にも注力した。

【結果】

オーダー発行現場のスタッフによると患者から詳しい説明を求められ、対応に苦慮する場面もあったが検査の手引を知ってからは、これらのコンテンツが役立っているとの声が寄せられている。また、経験の浅い研修医や新人技師らにとっても検査ごとの適応疾患、前処置等を容易に確認できるため簡易的なマニュアルとしても使われている。

【考察】

既存システムの基本的な機能を利用しているため余分にコストが発生する事はなかった。従来のように印刷物で配布すると、それに伴うコストに加え保管場所の確保が問題となっていたが、それらの問題も解消し、検査に関する最新情報の共有が可能となっている。今後も現場からの意見を柔軟に取り入れ、さらに発展させていきたいと考えている。